

自衛隊ヘリによる転院搬送について

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、去る4月6日、県内では初めてとなる自衛隊のヘリコプターによる患者様の転院搬送が行われました。もちろん当院におきましても初めての出来事であり、多くの方の協力なくして実現できることはありませんでした。ここでは、当時の状況を職員の舞台裏での働きともにご報告したいと思っております。



搬送には全長30m、幅16m、重さ10tの大型ヘリコプター（通称「ヌーク」）が使用されました。当初は県の防災ヘリコプター「おるり」での搬送も検討されましたが、経皮的心肺補助装置などの搬送機材が多く（総重量約420kg）、容量が足りなかつたため、福田県知事が自衛隊に要請したことから、今回の搬送が実現しました。

※経皮的心肺補助装置：略してPPCSといえます。急性期の心不全時に心肺補助に使用される人工心肺装置です。



ヘリポートには職員駐車場が臨時で使用されました。病院のヘリポートでは狭いためです。1台でも車が駐車されているとヘリは着陸できないため、利用者には当日の自家用車での通勤を止めるよう、各部署を通じて連絡をしました。



↑臨時ヘリポートとなった職員駐車場（1台も車がありません！）

また、石などが転がっていると、ヘリの風圧で飛ばされ、建物などを破損する恐れがあるため、当日は朝早くから駐車場の清掃が行われました。



↑清掃の様子

当日の搬送スケジュール

- 11:20 当院の臨時ヘリポートにヘリが着陸
患者様の移動、資器材固定等
搬送準備
- 12:45 当院を離陸
- 13:30 自衛隊中央病院ヘリポートに到着
（東京都世田谷区）
到着後、救急車で転院先へ搬送
- 14:35 転院先である東京大学医学部附属
病院（文京区）に到着

患者様を乗せたストレッチャーの通り道には、地面の凹凸による衝撃を軽減させるためにベニヤ板が敷かれまし
た。また、病院の周辺道路は離発着に備えて通行禁止となり、消防本部、東警察署の方々と職員が交通整理にあたりました。



↑ベニヤ板が何枚も用意されました



↑当日の当院周辺道路の状況



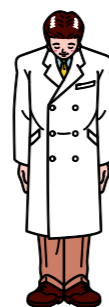
↑資器材搬入の様子



↑ヘリの中での入念な確認

搬送された患者様は、心臓の動きが突然悪くなる劇症型心筋炎という病気で入院していました。が、心臓移植のため移植認定施設である東京大学医学部附属病院に転院することとなりました。転院後、すぐに補助人工心臓の装着などを行ない、回復を待っている状況です。

今回の搬送においては栃木県をはじめ自衛隊第12旅団、消防本部、宇都宮東警察署の方々には多大なるご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。当院においても多くの職員が様々な形で携わり、職員一丸となって取り組んだ結果、無事にやりとげることができたのだと思います。また、入院や通院中の方、近隣の方、当日の交通整理にご協力いただいた方々、ご理解ご協力いただき本当にありがとうございました。



↑回復を祈りつつ見送りました